

鹿島鉄道の廃止届け提出にともなう意見陳述について

かしてつ応援団の団長を務めさせていただいております、小川高校生徒会会長 鬼沢友里と申します。応援団を代表して、意見を述べさせていただきます。

かしてつ応援団は、別名「鹿島鉄道沿線中高生徒会連絡会」と申します。平成14年7月に、沿線の中学校7校、高校9校、合計16校が加盟し、鹿島鉄道の存続のため様々な活動を行ってきました。

大正11年に開通した鉄道は、昭和54年に鹿島鉄道となり、沿線地元の中高校生の通学や車を持たないご老人などの貴重な交通機関として、今日に至りました。

平成13年の夏、鹿島鉄道の収入を支えてきた航空自衛隊百里基地への燃料輸送が廃止となり、鉄道会社が沿線市町村に公的支援を要請し、それが実現しない場合は、鉄道は廃止の可能性がありました。

この存続問題のさなか、鹿島鉄道の利用者の多い県立小川高等学校を中心として「かしてつ応援団」を結成しました。さらに各種団体が結成され、地元住民の貴重な交通手段である鉄道を守ろうという動きが活発になりました。

石岡市から行方市、鉾田市に至る地域での鉄道は、最も重要な交通手段であり、私達、中学生や高校生にとっても最も重要な通学の手段です。

地元の中学校を卒業して、高等学校に通学する場合があります。例えば、鉾田市の中学校を卒業して行方市・小美玉市・石岡市の高等学校へ通学する場合や、同様に行方市の中学校から鉾田市・小美玉市・石岡市の高等学校へ通学場合があります。

現在までは、鹿島鉄道を通学の手段とすることで、多様な高等学校を選択し、通学することが可能でした。もし鹿島鉄道が廃止となった場合、その高校選択と通学が極めて限定的になってしまい、沿線の中学生や高校生の進路実現に重大な影響を及ぼしかねません。

かしてつ応援団としては、存続のための募金活動やポスターを作成して利用者増加の促進や関連施設のクリーン作戦などを実行してきました。

また私の所属する小川高等学校では、地元の常陸小川駅での七夕飾りやクリスマスツリーの設置、鹿島鉄道キラキラピカピカイルミネーションへやラッピング列車への協力、駅フェスタへの参加、駅舎や壁画の作成など、様々な活動を通じ、鉄道利用者の増加やイメージアップを応援してきました。ほかの学校も、鹿島鉄道に対して同様な協力を実行してきました。応援団加盟校でも、文化祭で鉄道存続を呼びかけたり応援団への参加協力をお願いしました。

そして、かしてつ応援団を通じて、公的支援継続を求める署名活動と、鹿島鉄道応援募金のお願いを沿線各地で実施してきました。署名の数は5月現在で16,553筆、募金額は同様に2,607,798円となりました。

署名をいただいた方からは「鹿島鉄道は地元の貴重な鉄道だから、存続のためがんばってね」「私の孫が高校の通学に利用しているから、是非とも残して欲しいよ」「私達、年寄りには車がないので、鹿島鉄道は便利だよ。なくなったら、病院や買い物にも行けなくなるね。」などの言葉をいただきました。

かしてつ応援団としましても、通学者の利用増加を求め、鉄道と関連施設のイメージアップと利便性の向上に協力し、鹿島鉄道の存続を心から願い、公的支援を求めてさらなる活動を続けていきたいと考えています。

平成18年5月26日
かしてつ応援団長 鬼沢友里